

平成27年度通常総会記念講演会次第

日 時 平成27年5月19日(火)
午後2時00分
場 所 ホテルグリーンパーク津
6階「伊勢の間」

- 1 主催者挨拶
- 2 来賓挨拶
- 3 来賓紹介
- 4 祝電披露
- 5 講演

14:10～

「伊勢湾の再生に向けた次世代への継承」

講師 三重大学教授 朴 恵淑 様

- 6 パネルディスカッション
- 15:00～

「伊勢湾の再生に向けた森・川・海の連携」

パネラー (森) 速水 亨 様 (速水林業代表)

(川) 畑井 育男 様
(新雲出川物語推進委員会委員長)

(海) 小西 伴尚 様
(三重高校教諭・博士(学術))

コーディネーター 三重大学教授 朴 恵淑 様

伊勢湾の再生に向けた次世代への継承 森・里・川・海の連携と持続可能な開発のための教育(ESD)



1. 伊勢湾再生; 四日市公害から学ぶ「四日市学」
2. 森・里・川・海の連携; 流域圏
3. 持続可能な開発のための教育(ESD)に関する
ユネスコ世界会議「ESD in 三重 2014」

朴 恵淑(三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科教授)

This document should be cited as: The Bioregional ESD Practice, 100
Regions of E. Inlets and Coastal Practices in The Ise Mikawa Bay
Watershed, A Report of the Mikawa Bay Watershed ESD Strategic Series.

Published by:
RCE Cluster (Eurasia Regional Centre of Expertise on Education for
Sustainable Development)
Chubu University, Research Center
1-200 Matsunosotocho, Kasugazaki, Aichi, Japan

Editing and Coordination:
Risa Furukawa
Jyunko Kageura
Kana Kanata

Reporting:
Katsuro Ishiyama
Masayuki Aonuma
Shinobu Sakakibara
Chika Ito
Hiroaki Sano
Hatsue Takamoto
Misaki Kunitomo
Kazuo Hatanaka

Translation:
Kenji Hayakawa
SRCE Clubs

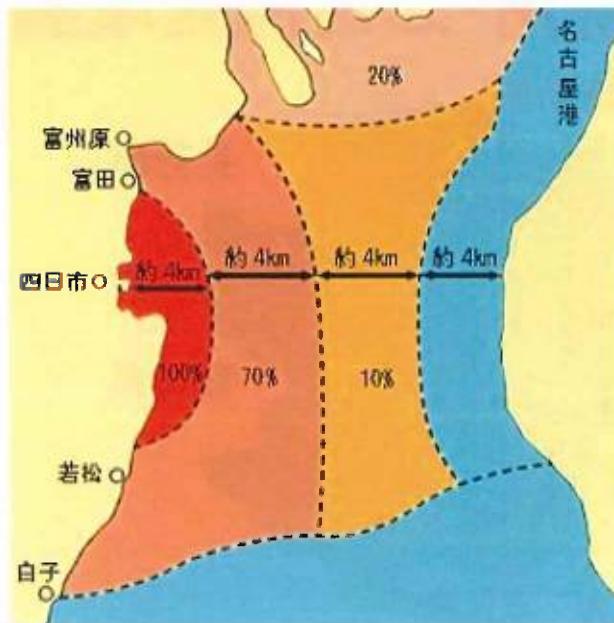
伊勢湾・三河湾流域圏



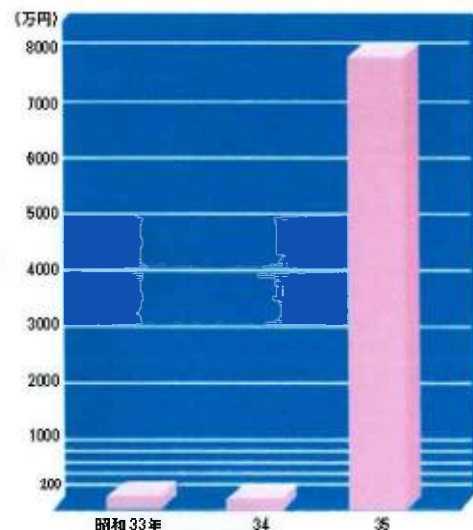
四日市公害の過去・現在・未来



伊勢湾北部における異臭魚の分布状況



異臭魚による年別被害額

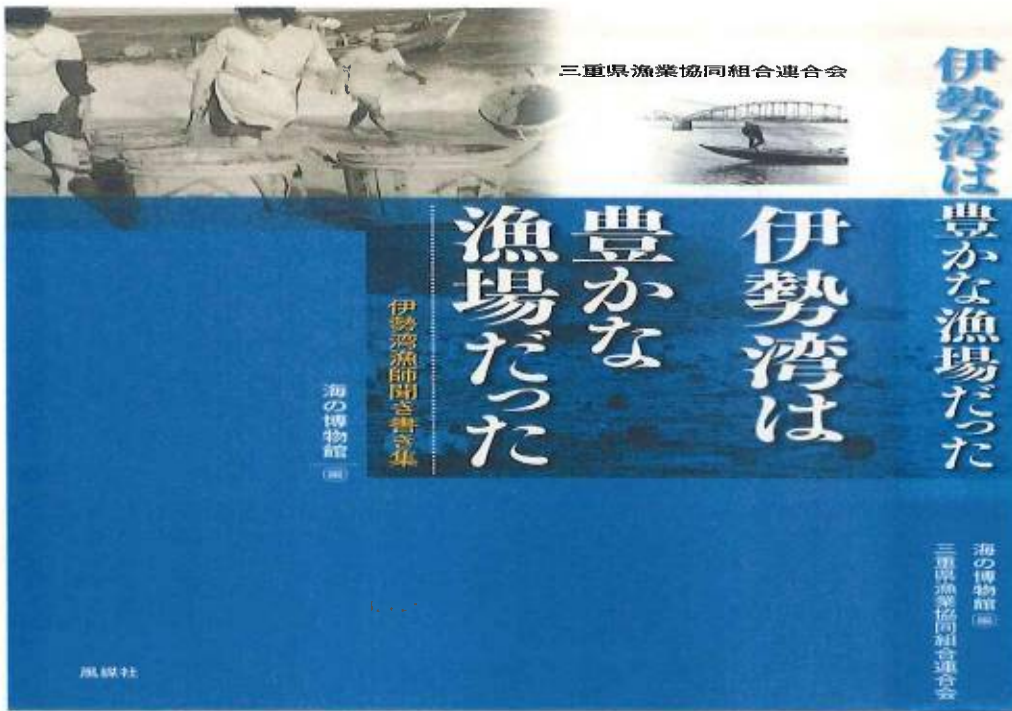


セイゴ (みぎれ魚)



1972-6-3 1905
 鈴鹿市四日市第一
 公害訴訟係

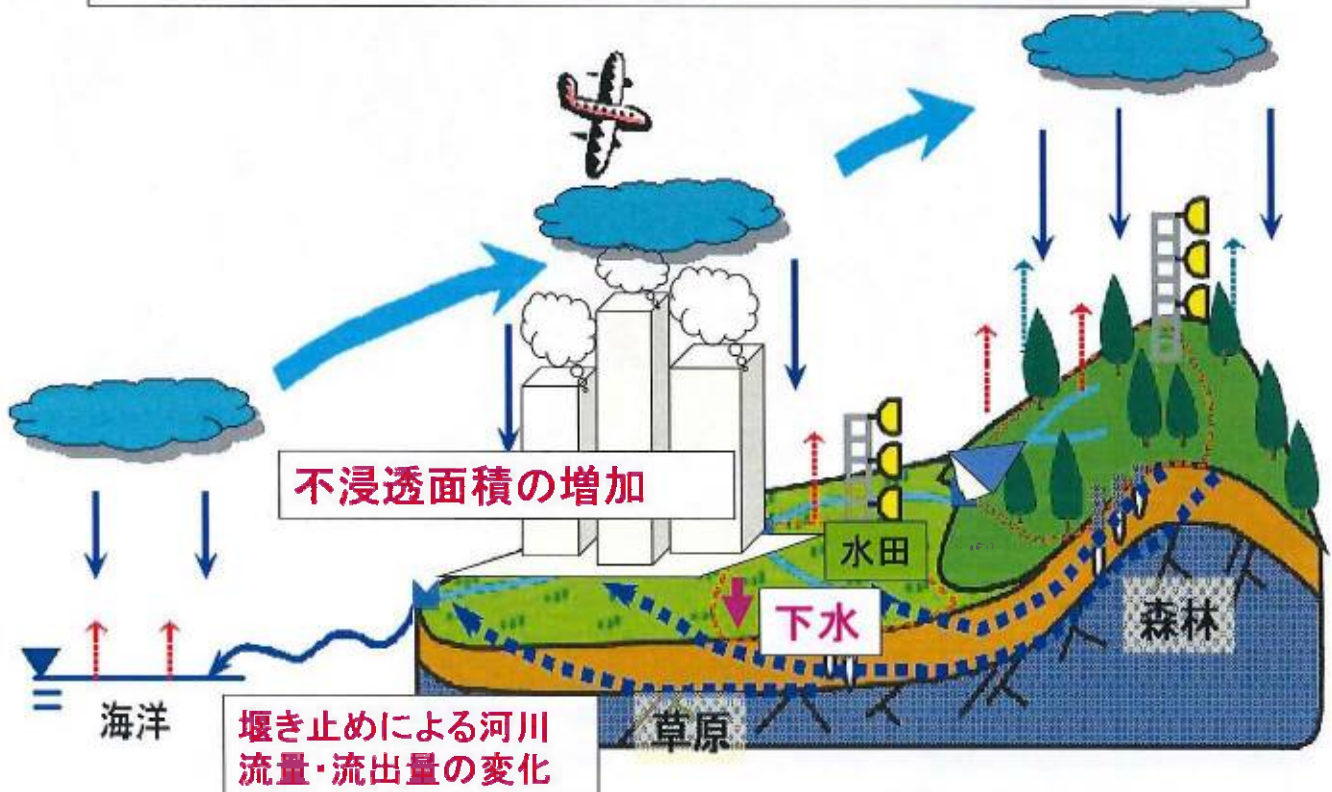
伊勢湾北部は優れた漁場として知られていたが、昭和33年頃から石油臭いという悪評が立ち始めた。第1コンビナートが本格稼働しはじめた後の35年頃には、異臭魚のとれる範囲が四日市の沖合4キロまで達するようになり、東京築地の卸売市場で「厳重な検査が必要」との通告を受け、返品や買ったときによって漁獲高・量ともに大きな被害を被った。これが四日市公害の始まりとなった。



自然は誰のものか？

流域の大気—水循環

地表面の被覆形態の変化＝重大な環境変化



「四日市公害と環境未来館」

- (1) 市民・企業・行政との三位一体の連携による資料館
- (2) 四日市公害の教訓から学び、環境と経済の好循環の持続可能な社会、世界一の環境都市四日市を創るツールとなる資料館
- (3) 国際環境協力のプラットフォームとなる常に成長する資料館



「世界一環境先進大学」三重大学の力を世界へ

三重から世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す
～人と自然の調和・共生の中で～



伊勢湾



- [三重大学概要](H26.5.1.)
- ・敷地面積：5,511,692㎡
 - ・建物延面積：326,695㎡
 - ・学生数：7,298人
 - ・* 附属学校学生数：1,231人
 - ・教職員数：1,852人
 - ・H25年度エネルギー使用量
(電気)約27,640MWh
(ガス)約4,153,000ms
(A重油)約564kl
(CO2排出量)約20,966t-

環境・情報科学館(MEIPL館)

四日市公害から学ぶ「四日市学」

四日市公害訴訟判決(1972.7.24)

- ・企業の共同責任、共同不法行為の認定
- ・大気汚染と喘息などの非特異的閉塞性肺疾患の「疫学的因果関係論」の認定

環境政策(総量規制)・最先端の環境技術

- ・公害防止条例の改正(1971年)
- ・全国初の総量規制公布(1972年)
- ・環境技術
- ・四日市イニシアチブ

* 四日市公害と環境未来館

- (1) 法制度の整備
- (2) 環境政策
- (3) 環境技術
- (4) 企業の環境倫理・社会的責任(CSR)
- (5) 環境ビジネス
- (6) 地域住民の連携・参画
 - ・市民ガバナンス
 - ・持続可能な社会構築
 - ・産学官民の協働型地域づくり
- (7) 人財養成
 - ・持続発展教育 (ESD)
 - ・実践的環境教育のツール(四日市学)
 → 三重大学共通教育 (2004～現在)
約2,000名が受講(毎年新入生の1/5)
- (8) 認識共同体の構築
 - ・各セクターとのネットワーク
 - ・国際環境協力 (アジア)

「四日市学」の意義

四日市学の目的

(2001年4月～)四日市公害を負の遺産から正の遺産としてとらえなおし、自治体を含む地域・住民と協働できる認識共同体を形成し、未来の環境快適都市づくりへ寄与する。

4つのアプローチ

人間学 命の尊厳

- ★公害問題の原点は何か?
- ★公害被害者の生存権を守る手段
- ★環境破壊がもたらした人間の価値判断の喪失

未来学 持続可能な社会システム

- ★公害都市から未来への環境快適都市への再生について

環境教育学 問題解決型・体験型教育

- ★公害を体験していない学生に四日市公害の過去・現在・未来の環境快適都市をめざす人材育成

アジア学 国際環境協力

- ★東アジアや東南アジアの国際環境協力のあり方を探る

2004年4月～「四日市公害から学ぶ四日市学」
(三重大学 共通教育)

人間と自然との関係とは何かという人間としての根本的な命題を考える。



取り戻そう、森・里・川・海のつながり To restore a sustainable natural cycle linking forests, satoyama, rivers and the sea

伊勢・三河湾流域では森・里・川・海において、すでに多様な主体により様々な取組が行われています。森・里・川・海の活動主体がお互いに交流することにより人のネットワークを構築し、森・里・川・海のつながりを確保しながら流域全体の生物多様性の保全を目指します。

Various sectors, such as national and local governments, citizen groups and nongovernmental organizations, private companies, and research organizations have been working for biodiversity in forests, satoyama, rivers and the sea in the Mikawa Bay Watershed. We aim to build a human network by interacting with those sectors and to conserve biodiversity as a whole in the region through restoration of sustainable natural cycles.

干潟・沼沢地の生物調査
干潟・沼沢地の生物多様性の調査が行われています。干潟に生息する水生生物、渡り鳥や留鳥の調査が継続的に実施されています。Surveys on invertebrates such as benthic life and migratory birds are continuously being performed. One example of this is the "Hill of Koshiroshibata," a survey and evaluation of marine ecosystem health.

希少種の陸地活動
希少植物の調査と採取、および生態系に関する調査や保護活動が実施されています。Surveys are underway on the existing status and habitat of species of *Eleocharis acicularis*, and there are conservation activities dedicated to them.

漁村地域の活性化
漁業資源の保全・利用やエコツアー等を通じて、漁村地域の活性化が図られています。Regional revitalization projects in fishing villages are underway in the form of utilization of natural resources and ecotourism.

海
THE SEA

かつての豊かな伊勢・三河湾の環境を取り戻すため、干潟や海の調査活動、普及啓発、漁業の活性化に向けた取組などが行われています。活動を通じて、干潟や身近な海の環境について、学び考え行動する輪が広がっています。

Various approaches have been taken to restore the healthy and productive environment in the region, such as natural environmental research, education on the sea environment and revitalization of the fishery industry. These activities help us to learn the value and benefits of the sea, and to act for conservation of marine environments.

町屋海岸プロジェクト ～素足で走れる町屋海岸～

三重大学環境ISO学生委員会では、民間企業(産)・国・地方自治体(官)・教育・研究機関(学)・地域住民(民)の産官学民と協力して“素足で走れる町屋海岸”を目指す「町屋海岸モデル」の構築および運用を目標に、町屋海岸で活動を行っています。



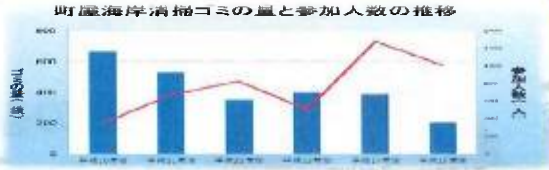
町屋海岸を軸としたUSR —町屋海岸モデル—

町屋海岸清掃活動



清掃活動風景の様子

ゴミ分別の様子



町屋海岸清掃で集めたゴミの量と参加人数の推移(平成26年10月現在)

本学に隣接する町屋海岸は不法投棄問題を抱えています。そこで、当委員会では地域住民によって結成されたNPO法人町屋百人衆の方々と平成18年度から年5回、ゴミ拾いなどの海岸美化活動を行っています。

平成24・25年度には、トヨタ自動車株式会社から“水をテーマにした自然環境を保護・保全する地域社会貢献活動”を支援する取り組み『AQUA SOCIAL FES!!』の一環としても行われました。

植生観察会



第42回町屋海岸清掃における植生観察会



三重県の準絶滅危惧種「ヤマトマダラバクダ」と「ハマニガナ」

海岸清掃後は、当委員会が中心となり、町屋海岸の植生観察会を行いました。海浜植物の特性を紹介したり希少植物の観察を行うことで、参加者とともに海岸の生物多様性について考えました。

松名瀬生物多様性調査





United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools



ESD in 三重 2014



持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議



CERTIFICATE

Mie University
Tsu City
Japan

is a participating institution in the UNESCO Associated Schools Network
for Education for International Cooperation and Quality Education for All

日本初！(総合大学)
三重大学のユネスコスクール認定
(2009.8.21)

Kolchiro Matsuura
Director General of UNESCO



北海道教育大学釧路校(ESD推進センター)、岩手大学、東北大学大学院環境科学研究科、宮城教育大学、立教大学ESD研究センター、玉川大学教育学部、金沢大学、三重大学、奈良教育大学、岡山大学、九州大学大学院言語文化研究院

[加盟大学] (2011年12月現在)



本事業は、平成26年度ユネスコ活動費補助費(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)として採択され、実施されました。

ESD in 三重 2014

～アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース世界会議～

期間 2014. 11. 7(土)～12(水)

11月7日(土) アジア・太平洋ユース伊勢湾海上国際環境学習

場所: 松永丸/海の博物館/海女小屋(国納)

11月8日(日) ESDエキスカーショ

場所: 松名瀬干潟/斎宮歴史博物館

11月9日(月) ESDエキスカーショ-分科会

場所: 三重県総合博物館(MieMu)/三重大学 環境・情報科学館

11月10日(火) 「映画"WOOD JOB!"と三重大学演習林」企画展オープニング

場所: 三重大学 レーモンドホール

11月10日(火) 10:00-11:00 一般参加無料

「映画"WOOD JOB!"と三重大学演習林」企画展オープニング

場所: 三重大学 レーモンドホール

11月10日(火) 13:30-17:30 定員200名 一般参加無料

アジア・太平洋環境コンソーシアムESD国際シンポジウム

場所: 三重大学 環境・情報科学館 1階ホール

● 環境コンテストECOアイディア展

● 基調講演1「瀬戸内海・大島におけるESD教育プログラムの開発

～ワークショップ事例発表: いじめ撲滅隊～」

● 基調講演2「食とエネルギーの環境大因テンマークの経験に学ぶ

～ヒーター・D・ヒーター～」

● 記念講演「日本における国連ESDの10年の成果・課題と今後の展望

～栗原 浩一(UNESCO/ESD/UIS/UNESCO/ESD/UIS)～」

● 分科会成果発表

● アジア・太平洋持続可能な開発のための教育(ESD)ユース宣言

11月10日(火) 17:00-18:00

三重大学ブース運営

場所: 名古屋国際会議場

11月12日(木) 17:00-18:00

三重大学セミナー「ESD in 三重2014」

場所: 名古屋国際会議場

問い合わせ・申し込み先

三重大学
国際環境教育研究センター支援室(担当 山田)
☎(059)231-9976・9823 FAX(059)231-9855
✉esd2014@gecer.mie-u.ac.jp
http://www.gecer.mie-u.ac.jp/



主催: 国立大学法人 三重大学/国際環境教育研究センター
協賛: 日本ユネスコ国内委員会/環境省中部地方環境事務所/三重県/三重県教育委員会/三重県私立学校会/三重県ユース国際活動協会/津市/津市教育委員会/松江市/松江市教育委員会/鈴鹿市/鈴鹿市教育委員会/志摩市/志摩市教育委員会/鳥取市/鳥取市環境研究センター/鳥羽市/鳥羽市/鳥羽市教育委員会/志摩市/志摩市教育委員会/日本ユネスコ国際会議/一般財団法人 M-SEA財団/財団法人一般財団法人 公益環境推進事業団/公益財団法人 三重大学・アジア文化センター/Atmosphere(Environmental) Action Network in East Asia (AANE/EA/ANEA)/特許非営利活動法人 三重大学ローライア協会/公益財団法人環境文化財団/三重大学国際環境教育センター/伊勢湾海上国際環境学習/三重大学環境・情報科学館/三重大学総合博物館/海の博物館/中部電力株式会社/三重県環境学術協同組合/株式会社光機製作所/NHC建設局/株式会社TJ/松城ケーブルテレビ・ステーション株式会社/三重大学印刷局/三重大学印刷局/伊勢新聞社/伊勢新聞社/西濃新聞社/中日新聞社/毎日新聞社/津市新聞社

「ESD in 三重 2014」

(1)文部科学省「ユネスコ活動費補助金(グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業)」採択(平成26年度～28年度)

(2)参加者:19カ国 210名(小・中・高・大学)

中国 27名、韓国 25名、ドイツ 7名、ベトナム 5名、タイ 2名、
バングラデシュ 2名、スウェーデン 2名、インドネシア 1名、
インド 1名、トルコ 1名、ウガンダ 1名、ロシア 1名、
ハンガリー 1名、フランス 1名、スペイン 1名、デンマーク 1名、
アメリカ 1名、ブラジル 1名、日本 129名

(3)「ESD in 三重2014」

- ・三重県の環境問題の過去・現在・未来を考える
→ 四日市公害から学ぶ「四日市学」
- ・三重県の多様な環境・文化に気づく
→ 流域圏／林業／海女文化／松名瀬干潟
- ・三重から世界へ誇れる環境人材・グローバル人材を育つ
→ 持続可能な開発のための教育(ESD)
- ・アジア・太平洋・世界のユースESDネットワークを創る
→ 情報発信

勢水丸

- ・総トン数 318トン
- ・長さ(全長) 50.90m
- ・幅(型) 8.60m
- ・航海速力 12ノット









アジア・太平洋持続可能な開発のための教育 (ESD) ユース宣言

この度ESD in 三重2014に参加した私たち、アジア・太平洋地域のユースは、伊勢湾洋上国際環境学習など、環境及び文化に触れる様々なプログラムを体験しました。この貴重な体験を生かし、持続可能な社会をつくるためにこの宣言文を作成しました。

現在、気候変動や生物多様性の減少、環境悪化に伴う社会的・経済的な不公平のような、国境を越えた問題が起きています。これらの問題は将来になって、本人や周りに大きな影響を及ぼすことに違いありません。従って、私たちは、地球上のすべての命が調和する持続可能な世界を創るために、次のように宣言します。

- 危険や安全に対する意識を高め、日ごろから身の回りのリスクを回避するために備えます。
 - ◎私たちは災害を自分にも起こりうるものとして捉え、危険について自発的に考えて、今日、明日、そして未来のために、知識を伝えていきます。
 - ◎一人ひとりが各地域の特徴を把握して、災害に関する課題を見出し、それに対応できる力を養います。
- 今ある生態系を保護し、資源の有効活用のための活動を展開します。
 - ◎私たちはエネルギーを大切に、木を植え、環境に配慮した乗り物を使うことで二酸化炭素の排出を減らします。
 - ◎あらゆる生物が共存していくために、再生可能エネルギーの重要性を広めていきます。
- 豊かな自然環境を次世代に残していくために努めます。
 - ◎自然のバランスを保つために正しい知識を身につけ、次世代にも継承していきます。
 - ◎環境保全活動に積極的に取り組み、世代を問わず、すべての人々への環境教育に力を注ぎます。
- 生活と環境の調和を保つために努めます。
 - ◎環境問題を私たち自身の課題としてとらえ、遺産、文化、自然から得た知識を用いて、ともに行動します。
 - ◎持続可能な社会づくりに必要な習慣をつけるために、伝統文化を保全、継承する意識を高め、実行します。
- 国際的な視点を持ち、アジア・太平洋ユースネットワークを強固にし、問題解決に協力します。
 - ◎私たちは互いの言葉に耳を傾け、違いを理解、尊重し合い、行動に移します。
 - ◎自国の習慣による固定観念にとらわれず、さまざまな視点からものごとを考え、それを発信していきます。

私たちは、持続可能な社会づくりに向けに必要なことを考え、学び、平等で豊かな世界を目指します。自然と人間が調和し、命あふれる地球を未来に引き継ぐことを実現するために努めます。そのために、現代社会における問題に注意を向け、積極的に知識を習得し、解決に挑みます。この使命を果たすために、ともに努力を惜しまないことを、ここに宣言します。



2014年11月10日

流域圏ESD→ものづくり／ひとづくり／みらいづくり

「流域圏ESD講座」の概要

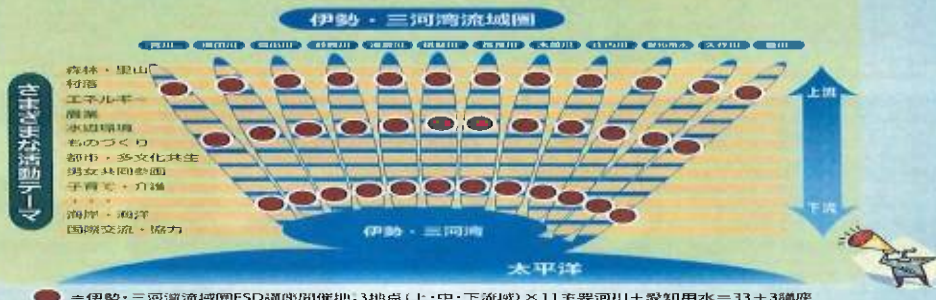
伊勢・三河湾流域圏ESD講座は、国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」(2005年～2014年)の提唱に応じ、東海・中部地域で持続可能な発展のための教育を推進するための活動のひとつです。

活動対象地域を、愛知・岐阜・三重の3県をほぼカバーする伊勢・三河湾流域圏(伊勢湾と三河湾に流れ込む河川の集水域)とし、地域の様々な課題解決のための「学び」のネットワークを広げることが目的としています。伊勢・三河湾流域圏の主要11河川(+1用水)の上流・中流・下流の計33(+3)地点において、地域の課題に取り組む団体と連携して、3年間で100を超えるESD講座を開催しました。

テーマは、地域に根差した環境・社会・経済の諸課題とし、伊勢・三河湾流域圏における多様な課題を共有し、その解決のために知恵を出し合いました。



縦系と横系で持続可能な地域を織ろう!



「流域圏ESD講座」の進め方

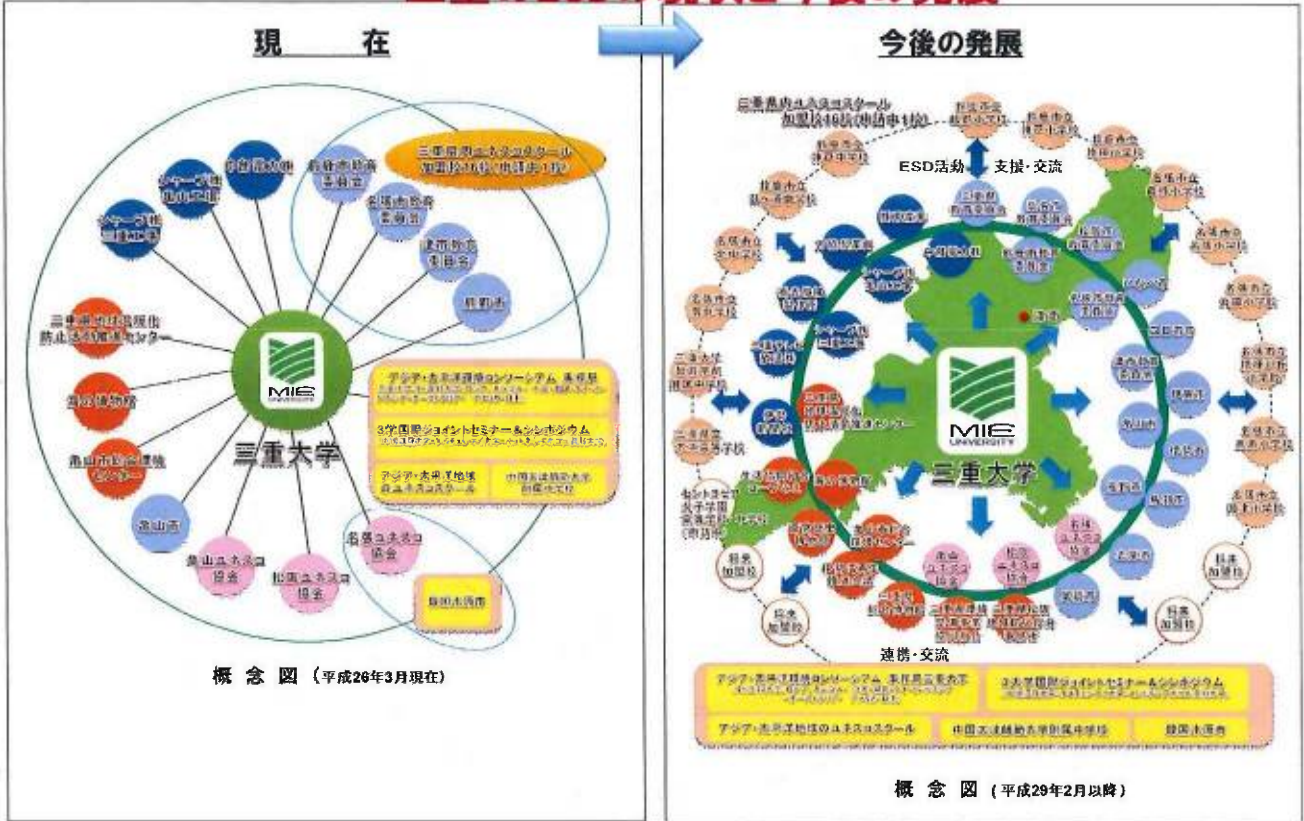
- 1) 地域の調査: 活動初期は、各河川の上・中・下流からそれぞれモデルとなる課題に取り組む教育機関やNPO・市民活動団体などのステークホルダーを選出するため、各河川において調査・情報収集を行う。
 - 2) ESD講座の実施: 上記の調査を経て、各流域において、地域に根差した課題(あるいは他地域との関わりの中で生じる課題)に取り組む諸団体(学校や市民団体、企業など)と連携してESD講座を開催する。
 - 3) 伊勢・三河湾流域圏の課題共有: 事業終期には、伊勢・三河湾流域圏の上・中・下流計33か所(+3)におけるESD講座の成果を持ち寄り、縦系としての上下流交流と、横系としての流域間交流を目的としたフォーラムを実施する。
- 2012年から2014年度までの3年計画で、合計約100の地域課題やその解決のために活動を行う主体の情報を収集し、共有、協働による持続可能な流域圏づくりをめざしてきました。



平成26年度 ユネスコ活動費補助金 グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業
(2014 - 2016年)

「三重ブランドのユネスコスクールコンソーシアム」

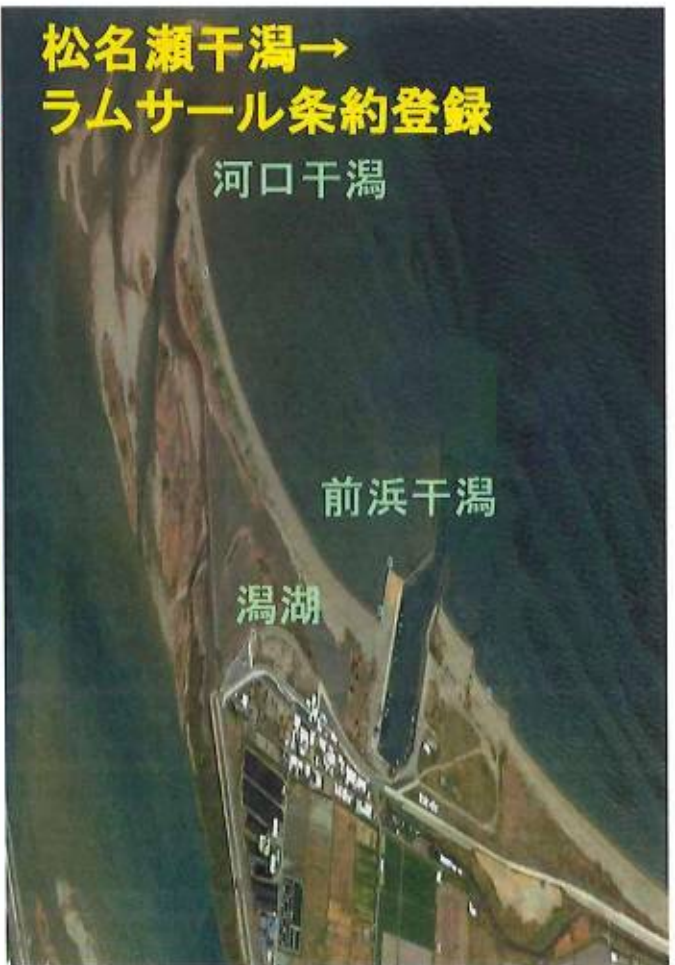
三重のESDの現状と今後の発展



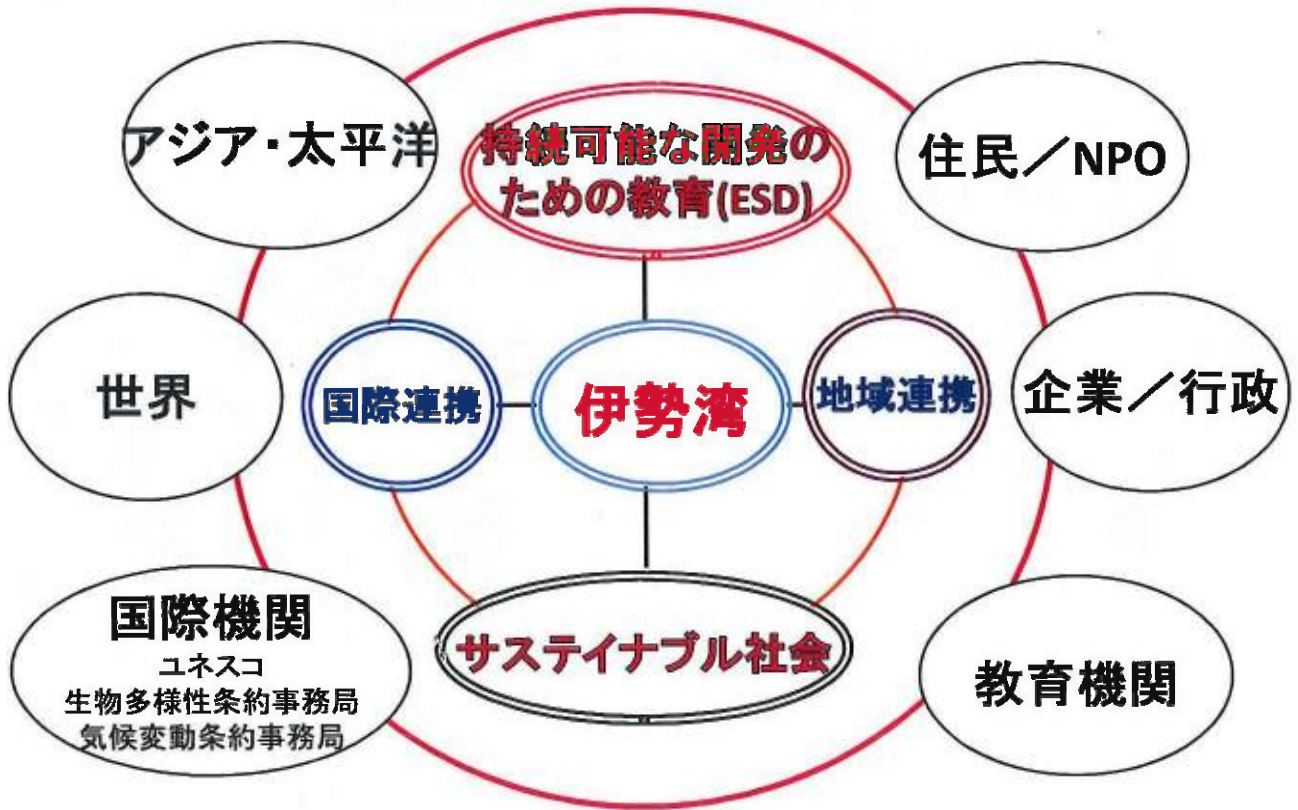
海女文化→
ユネスコ世界文化遺産登録



松名瀬干潟→
ラムサール条約登録



伊勢湾環境曼荼羅(森・里・川・海の連携)



伊勢湾再生戦略

